

## 小説「下町ロケット・神谷弁護士」のモデル

### 鮫島弁護士が 知財戦略解説

弘 前

的財産を生かした経営戦略について解説した。鮫島氏は、同作に登場する知財専門の弁護士「神谷



ひろき産官学連携フォーラム（櫛引利貞会長）は6日、弘前市のアートホテル弘前シティで基調講演会を開いた。小説「下町ロケット」の登場人物のモデルにもなった鮫島正洋弁護士（内田・鮫島法律事務所）が、特許など企業が持つ知

中小企業の知財戦略について講演する鮫島氏

修一」のモデル。「小説やドラマがヒットして知財の概念が浸透したのがうれしい。ただ、法律事務所の客は増えたが、私ではなく優秀で誠実な『神谷弁護士』に会いにくるので大変」と話し、会場を沸かせた。

講演では、同作や実在の企業を例に挙げ、特定分野で首位に立つ「ニッチトップ」企業になるために、模倣品対策などを含む知財戦

略が不可欠であることを強調。「身の丈にあつた市場を選び、研究開発の成果を必須特許化して他社に参入させないのが大切」と指摘した。

講演会に先立ち同フォーラムの定時総会が開かれ、2016年度収支決算案や17年度の事業計画案など4議案を承認した。  
(三浦康平)

取得しても特許明細書の記載方法が悪いため模倣の排除ができない事例が多発している」とし「大企業ほど多くの特許を出願できない中小企業は、一つ一つの特許を徹底的にプラスチックする必要がある」と呼び掛けた。

また、特許を

【平成29年7月11日東奥日報7面掲載】

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです